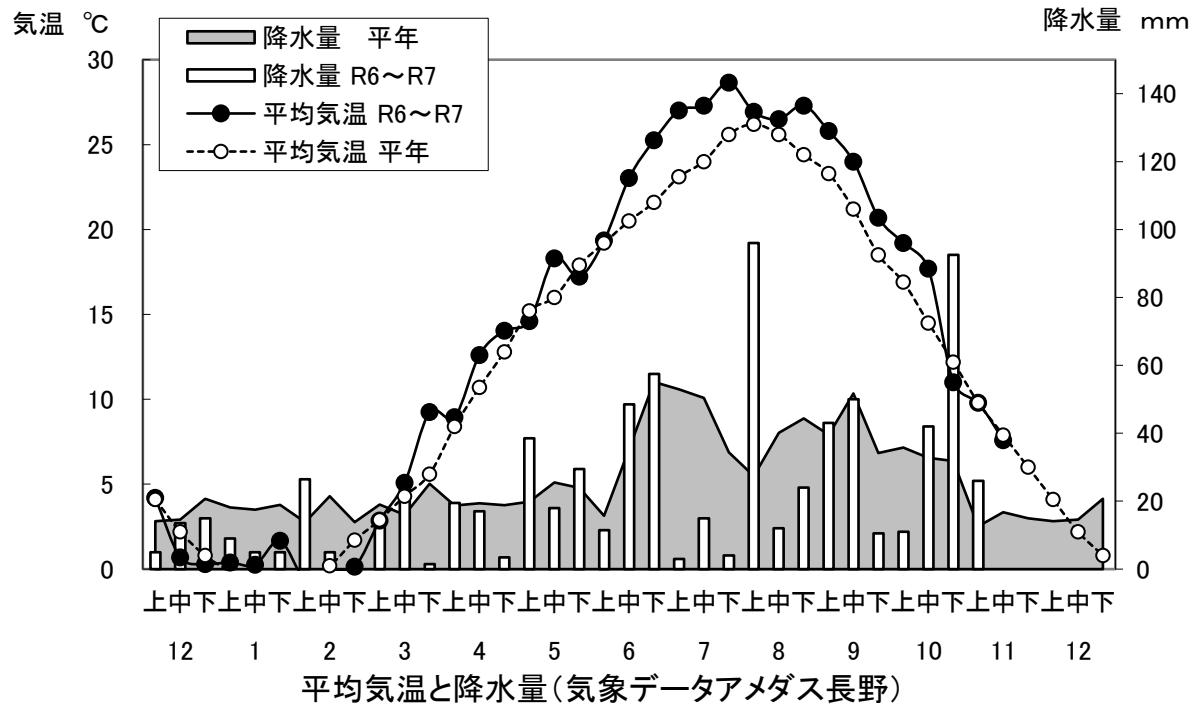


農作物の生育状況（12月16日現在）について

令和7年12月16日
長野農業農村支援センター

【気象データ】



【作物】

（1）大豆

高温干ばつの影響により、吸汁カメムシによる虫害、紫斑病、しわ粒・皮切れ粒が散見された。また、青立ち株が目立ち、未熟・小粒により収量が低下した。収穫物へのマルバルコウ等の種子混入も確認されている。

（2）麦

10月下旬から播種作業が始まり、12月中旬も一部播種が行われている。標準播種出芽状況は良好。

【果樹】

（1）りんご

令和8年産「ふじ」のりんご花芽調査（12月1日調査）における健全花芽率は、管内平均（2市町村2ほ場）で64.6%（55%～74%）と基準となる60%を上回っており、令和7年調査結果（59%）よりやや高くなかった。

【野菜】

（1）アスパラガス

茎葉の刈り取り始まる。例年より、黄化が遅い傾向にあるが、遅いほ場では地上部の刈り取りを遅らせたい。

（2）果菜類

12月上旬のハウス内においては、凍霜害による枯れ上りはなくミニトマトなど収穫しているほ場も見受けられた。

（3）ナガイモ

収穫が始まる。一部ほ場では、長さは平年より長く、直径は細い傾向（要因：定植後～7月8月の干ばつにより生育が抑制傾向であった。病気の発生は少なかった）

【花き】

ユーカリは12月に入り、出荷量が増えている。斑点性病害の発生は少なく、昨年同時期よりも出荷量が増加している。